

2026 年 7 月 21 日（火）

報道関係各位
プレスリリース

株式会社 SkyDrive

**台湾での救急医療搬送の実装準備が前進
～台湾を代表する研究開発機関 ITRI、台湾側の事業・実装パートナーである 7A
Drones と「救急医療搬送の実装準備に関する合意」を締結～**

コンパクトな「空飛ぶクルマ」（※1）の開発・製造・販売を行う株式会社SkyDrive（本社：愛知県豊田市、代表取締役CEO 福澤知浩、以下「SkyDrive」）は、台湾を代表する研究開発機関である工業技術研究院（以下「ITRI」）および台湾の無人航空機の開発・ソリューション企業であり、本プロジェクトの事業・実装パートナーである新楽飛無人機（以下「7A Drones」）の3者間において、2026年7月15日に「救急医療搬送の実装準備に関する合意」を締結したことをお知らせいたします。

本合意は、これまでの「ユースケース検討」および「機体購入基本合意（LOI）」の成果を踏まえ、台湾における「空飛ぶクルマ」を活用した救急医療搬送システムの社会実装をさらに具現化するための、明確な役割分担とタイムラインを定めたものです。



2026 年 7 月 15 日に東京都の The Okura Tokyo にて開催された、台湾関係者、ITRI、7A Drones および SkyDrive による、澎湖諸島での救急医療輸送実装準備合意の締結式の様子

前方：左から、7A Drones CEO 許新勝氏、ITRI 院長 張培仁氏、SkyDrive 代表取締役 CEO 福澤知浩
後方：左から、經濟部 國際貿易署署長 劉威廉氏、經濟部産業技術司司長 郭肇中氏、經濟部部長 龔明鑫氏、
台北駐日經濟文化代表処 李逸洋氏、行政院 政務委員 馬永成氏、經濟部 産業發展署署長 邱求慧氏

■ 背景およびこれまでの経緯

SkyDrive、ITRI、7A Drones の 3 者は、2025 年 5 月に台湾での事業化に向けた業務提携を締結し、台湾海峡上に位置する離島群・澎湖（ポンフー）諸島における緊急医療輸送のユースケース開発に着手しました。さらに 2026 年 2 月には、7ADrones との間で「SKYDRIVE（SkyDrive 式 SD-05 型）」10 機の購入に関する基本合意（LOI）を締結するとともに、澎湖本島（馬公市）と二次離島（虎井）を結ぶ具体的な救急医療搬送航路案を策定いたしました。（※2）

冬期の荒天による船舶の欠航など、離島地域における医療アクセスへの慢性的な課題に対し、即応性に優れた「空飛ぶクルマ」を導入するこのプロジェクトは、SkyDrive にとっても社会的意義が極めて高く、海外展開における最重要ユースケースの一つとして位置づけています。

7ADrones は、台湾における無人航空機の開発・ソリューション企業として、物流、防災、災害対応等の分野で実績や今後の自律飛行に強みを持っています。本プロジェクトにおいては、台湾側の事業・実装パートナーとして、現地での実証、機体運用、保守整備、行政・医療機関との調整を主導、実装準備を推進していく役割を担います。



■ 本修正案の概要と「実装準備段階」への移行

これまでの構想・検討段階から一歩進み、今回の締結によってプロジェクトは「社会実装の準備段階」へと移行します。3 者は、2028 年以降のサービス開始を見据えた具体的なマイルストーンに合意し、主に以下の項目について各領域を主導・サポートしながら一体

となって具体化を進めてまいります。

- 初期ルートの定義と拡大：SkyDrive と 7A、ITRI で策定した航路案「馬公-虎井」の計画を精査し、澎湖諸島内における追加の候補ルートを順次選定。
- 医療インフラ・関係機関との連携：候補となる病院、クリニック、救急医療サービス（EMS）関係者や地方自治体の保健当局を特定し、7ADrones および ITRI を中心に、現地関係者との実務的な調整を開始。
- 離着陸場（パーティポート）の確保：馬公、虎井をはじめとする各候補地にて、パーティポートや一時着陸サイトの選定および土地所有者・管理者との事前調整を 7A Drones の現地ネットワークも活用しながら推進。
- 技術・要件の明確化：SkyDrive の eVTOL に関する知見と、7ADrones が有する無人航空機の・保守・大型物流ドローン等の実装経験を組み合わせ、無人航空機運行管理システム、管理、通信、充電インフラおよび電源供給などの技術・運用要件を整備。
- 官民連携体制の構築：制度設計や規制緩和、インフラ整備を横断的に解決するため、台湾の中央省庁、地方自治体、医療・交通・電力・通信などの関係者を巻き込んだ官民合同チームの立ち上げを ITRI および 7A Drones と連携して検討。

■ 各コメント

工業技術研究院（ITRI）院長 張 培仁 氏

台湾・澎湖諸島における離島救急医療輸送は、空飛ぶクルマの社会実装を推進する上で、大変重要なユースケースであると考えています。今回、SkyDrive および 7A Drones との協力が新たな段階へ進んだことを大変嬉しく思います。ITRI は、長年にわたり技術革新を通じて台湾産業の発展を支えてまいりました。今後も応用研究開発機関として、空飛ぶクルマに関する技術開発や実証を推進するとともに、産学官の連携を通じて、台湾と日本の技術交流および産業協力のさらなる発展に貢献してまいります。本取り組みが、離島地域における新たなモビリティの実現につながるとともに、台湾と日本の協力関係をさらに深め、アジアにおける空飛ぶクルマの発展につながることが期待しています。

新楽飛無人機（7A Drones Co., Ltd.）CEO Hsin-Sheng, Hsu（許新勝）氏

澎湖離島における救急医療搬送プロジェクトが、新たな段階へ進んだことを大変嬉しく思います。7A Drones は、SkyDrive との機体購入基本合意（LOI）の締結以降、台湾における事業化に向けた検討を重ねてまいりました。今回の合意により、実際のサービス開始を見据えた具体的な準備に関係者の皆様と進められることを大変意義深く感じています。今後は、機体導入に向けた準備や運航体制の検討、関係機関とのエコシステム構築など SkyDrive および ITRI と密接に協力しながら、一步ずつ着実に取り組んでまいります。本プロジェクトが、台湾における空飛ぶクルマの実用化に向けた重要なモデルケースとなるとともに、日台両国の協力関係をさらに深化させる契機となることを期待しています。

株式会社 SkyDrive 代表取締役 CEO 福澤 知浩

台湾・澎湖諸島における離島緊急医療輸送は、救急医療体制の強化という地域課題の解決に直結する、SkyDrive にとっても社会的意義が極めて高い重要なユースケースです。ITRI および 7A Drones 社とのパートナーシップにより、本プロジェクトが構想段階から着実な『実装準備段階』へと進むことを大変心強く感じています。

今後は、馬公－虎井ルートを起点として、病院や救急医療サービスとの連携、離着陸場（バーティポート）、無人航空機運行管理システム、充電インフラの整備、そして法制度や官民連携体制にいたるまで、一つひとつの要素を具体的に積み上げてまいります。本案件は、台湾を代表する ITRI、そして 7A Drones 社の強力なご支援があって初めて実装可能となるものであり、今後も台湾側の関係者の皆様と緊密に連携してまいります。この取り組みを、台湾における空飛ぶクルマ導入の最初のモデルケースとして共に大切に育て、アジア、そして世界の離島医療の未来に貢献してまいります。

工業技術研究院（ITRI）について

工業技術研究院（Industrial Technology Research Institute, ITRI）は、より良い未来の実現に向けたイノベーションを推進する世界有数の研究開発機関です。1973 年の設立以来、台湾産業の労働集約型からイノベーション主導型への転換において重要な役割を果たしてきました。これまで、スタートアップおよびスピンオフ企業の創出・育成を支援し、UMC（聯華電子）や TSMC（台湾積体電路製造）をはじめとする著名企業の輩出にも貢献してきました。本部は台湾に所在し、米国、ドイツ、英国、日本、タイにも拠点を展開しています。詳細は公式ウェブサイト（<https://www.itri.org/eng>）をご参照ください。

新樂飛無人機（7A Drones Co., Ltd）について

7A Drones は、2018 年に設立された台湾の義美グループ傘下の企業で、各種無人航空機（UAV）の開発・製造を手がけています。農業、物流、防災、医療搬送など多様な分野で高性能ドローンを提供し、台湾および海外でスマートモビリティの発展に貢献しています。同社は、台湾で唯一、25kg 超のマルチコプター型 UAV の型式認証を取得し、民間航空局（CAA）の公式訓練機としても採用されています。物流分野では、中華郵政・交通部運輸研究所が主導するプロジェクトの一環として、150kg 級ドローンの特別型式認証も取得し、次世代物流モデルの実用化を目指しています。独自の特許技術も多数保有し、今後は、法制度やインフラ整備を含めた空のモビリティ・エコシステムの構築を推進するとともに、AI 自律飛行や大型物流ドローンの実装を通じて、台湾における次世代航空モビリティの社会実装をリードしていきます。

<https://7adrones.com/en>

※1 空飛ぶクルマとは：電動化、自動化といった航空技術や垂直離着陸などの運航形態によって実現される、利用しやすく持続可能な次世代の空の移動手段です。諸外国では、Advanced Air Mobility（AAM）や Urban Air Mobility（UAM）と呼ばれています。

引用元：国土交通省（令和 8 年 3 月付）<https://www.mlit.go.jp/koku/content/001994084.pdf>

※2 関連プレスリリース：

<https://skydrive.co.jp/archives/63419>

<https://skydrive.co.jp/archives/68780>

《株式会社 SkyDrive 概要》

設立	2018 年 7 月
代表者	代表取締役 CEO 福澤知浩
URL	https://skydrive.co.jp/
所在地	豊田本社：愛知県豊田市挙母町 2-1-1 豊田開発センター：愛知県豊田市西中山町山ノ田 20-2 豊田テストフィールド：愛知県豊田市足助地区 名古屋空港オフィス：愛知県西春日井郡豊山町大字豊場 県営名古屋空港 2F 東京オフィス：東京都千代田区平河町 1-3-13 平河町フロントビル 3F 大阪オフィス：大阪府大阪市北区梅田 1-3-1-800 大阪駅前第一ビル 8F 山口テストフィールド：山口県山口市阿知須
子会社	株式会社 Sky Works：静岡県磐田市 SkyDrive America, Inc.：Beaufort, South Carolina 29902, U.S.A. 株式会社 AlterSky：愛知県豊田市
事業内容	「100 年に一度のモビリティ革命を牽引する」をミッションに、「日常の移動に空を活用する」未来を実現するべく、2018 年 7 月に設立、愛知県豊田市を主拠点にコンパクトな「空飛ぶクルマ」を開発し、静岡県磐田市のスズキグループの工場で製造を開始しています。官民協議会の構成員として制度設計にも関与、2020 年に日本で初めて公開有人飛行試験に成功、2025 年には大阪・関西万博にてデモフライトを実施しました。2028 年のサービス開始を目指し、引き続き機体開発に努めてまいります。

本件に関するお問い合わせ

《株式会社 SkyDrive》

広報 石井

TEL：090-6389-3584

Email：info@skydrive.co.jp

<https://skydrive.co.jp/contact>